

札幌トレセン大会報告書

2018. 3. 7

札幌4種技術委員会（嶋田 雄二）

<p>1、大会名・日程 トレセン交流大会U11 2018年2月3・4日 三笠ドーム・北村土里夢</p>
<p>2、参加選手（ ）内は所属チーム 神 晴翔・南 人晟・(石狩FC) 奥山 慧秋・佐川 亮太(DENOVA) 齊藤 大翔(福井野) 田中 基也 (SSS札幌) 山田 遥斗・小澤 秀太郎(AGGRE) 児玉 匠・湯川 匠(LIV) 田中 瑞己(札幌ジュニア) 曾我部 修羽・甲田 宗爾・川地 一颯・根本 青陽(北海道コンサドーレ札幌) 計15名</p>
<p>3、引率者名 嶋田 雄二(SSS札幌)、柴田 得光(SSS札幌サクセス)、三浦 丈治(西園)</p>
<p>4、大会結果 2月3日(土)【予選リーグ】 釧路2-0、北空知5-0、苫小牧9-0、宗谷9-0 ※5チーム中1位 2月4日(日)【1位リーグ】 札幌レッド2-1、南北海道1-3、北北海道2-2、根室4-1 ※5チーム中</p>
<p>5、成果と課題</p> <p>成果</p> <ul style="list-style-type: none">・ボールを大事にしようとする選手が増えて、苦しい場面でもクリアーに逃げずパスに変えることやドリブルで持ち直すことにチャレンジする姿勢が生まれた。その結果、対戦したどのチームよりもボール保持で上回り、狙いや意図のある攻撃が出来るようになってきた。・積極的に高い位置からボールにプレスをかけ、その際に意図をもってボールの取り所を狭くする判断を前線の選手から後ろの選手までが共有しながら連動して行う回数が増えてきた。それは、守備の際も頭を使い判断する習慣がついてきたと言える。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none">・チャレンジの結果だが、自陣でのボールの失い方が悪く、失点のほとんどがショートカウンターから決められた。相手の速く、厳しいディフェンスの中でも状況にあったプレーを的確に選択できるようにならない。そのためには、より素早くポジションを取り、相手や味方、スペースの情報を複数持ったうえで選択肢があるテクニックの発揮が必要となってくる。・前線から連動して相手を追い込むシーンは多かったが、ボールを奪いきる回数は少なかった。それはボールへアタックする強度不足やステップワークの脆弱性が原因と考えられる。今後は寄せることに満足せず、「奪いきる」守備を日常から求めていくことが大切となる。